

1 概要

(1) 調査の目的

「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」（実施要領より）

(2) 実施日 平成29年4月18日（火）

(3) 対象学年 第3学年

(4) 実施教科等 国語A（主として「知識」に関する問題）・国語B（主として「活用」に関する問題）
 数学A（主として「知識」に関する問題）・数学B（主として「活用」に関する問題）

(5) 質問紙調査 学習意欲、方法、環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

2 実施教科等における全国・埼玉県・狭山市・本校の平均正答率（小数点以下四捨五入）

平均正答率	国語A	国語B	数学A	数学B
全国	77	72	65	48
埼玉県	76	72	63	48
狭山市	74	69	61	44
山王中	69	62	54	38

3 分析と課題

【国語A・B】

・正答率が50%を下回り、無解答率が10%を上回る設問は、「相手に分かりやすいように語句を選択して話す」「文脈に即して漢字を正しく書く」「表現の仕方について捉え、自分の考えを書く」の3項目である。

今後、「語句の意味を理解し、文脈の中で正しく適切に使う」「文書の内容を理解し、伝えたい事柄について、自分の考えや気持ちを根拠に明確にして書く」ことが課題である。

【数学A・B】

・正答率が50%を下回り、無解答率が10%を上回る設問は、「文字式の計算とその利用」「方程式の解き方とその利用」「扇形の弧の長さ」「柱体の体積」「関数の意味」「反比例の比例定数の意味」「資料の活用」「事象を数学的に表現したり、解釈する」等の項目である。

今後、「数量・方程式・図形などの知識を身につけ、関数とグラフの関係を理解させ、事象を考え、数学的に解釈し、表現、説明できるようにすること」が課題である。

4 課題解決の方策

- 基礎基本を繰り返し指導し、すべての生徒に基礎学力を保障する。
- 授業に集中させ、予習復習を継続的に行い学習習慣を育成する。
- 基礎基本の徹底を継続すると共に、応用力・活用力を伸ばす取組を進める。

【質問紙調査】

・「家の人と学校での出来事について話をしますか？」との問いに対して、肯定的な生徒は73%いるが、「しない」と答えた生徒は、27%存在し、県や国の数値より高い。

【今後の対策】

・授業改善のため、全教職員が外部指導者を招聘しての研究授業を実施し、生徒の学力向上に寄与できるアクティブラーニング的な授業やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業への工夫・改善を進めている。